

問1 日本の港湾地区には、広大な敷地に黒い山のように高く積み上げられた鉱物資源を、巨大なクレーンやベルトコンベアで管理する施設が見られます。このような施設で石炭を蓄えておく主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 愛媛公立入試 類似)

1. 海外からの供給が不安定になった際でも、エネルギー供給を維持し、産業や国民生活の安定を図るため。
2. 輸入した資源を一定期間寝かせることで、燃焼時に発生する有害物質を自然分解させるため。
3. 国内の炭鉱で採掘された石炭を一時的に集め、海外へ輸出するための準備を行うため。
4. 石炭を空気にさらして乾燥させることにより、製鉄所で使用する際の燃焼効率を最大限に高めるため。

問2 日本の大都市の周辺で行われている、消費地に隣接しているという立地条件を最大限に生かした農業の形態について説明した記述として、最も適切なものはどれですか。輸送費用や時間の節約、および農作物の品質維持の観点から考えてください。 (2023年 高知公立入試 類似)

1. 大都市の需要に合わせ、輸送費用を低く抑えつつ、野菜や果実などを新鮮なうちに市場へ届ける農業
2. 冬でも温暖な気候を利用して、ビニールハウスなどで出荷時期を早めて高い収益を狙う農業
3. 高冷地の冷涼な気候を利用して、夏の出荷時期を他の地域より遅らせることで価格を安定させる農業
4. 広大な土地と大型の機械を使い、米や麦などの穀物を大規模かつ効率的に生産する農業

問3 収穫量の上位3県が、静岡県 (38.0%)、鹿児島県 (30.2%)、三重県 (8.4%) の順となっている農産物「茶」の生産状況について、その背景や特徴を説明した文として最も適切なものを次から選びなさい。 (2016年 長崎県公立入試 類似)

1. 静岡県の牧之原や鹿児島県の台地などで大規模な生産が行われ、上位2県で全国のシェアの約7割を占めている。
2. 寒冷な気候や冷涼な土地を好むため、北海道や長野県などの高冷地が主な産地となっている。
3. 水田の裏作として全国各地で栽培されており、新潟県や秋田県などの稲作地帯が収穫量の上位に入っている。
4. 大消費地に近い場所で生産してすぐに出荷する近郊農業が中心のため、千葉県や茨城県が上位を占めている。

問4 日本を代表する4つの工業地帯 (京浜、中京、阪神、北九州) の工業出荷額の内訳を比較した際、輸送用機械器具の割合が約46%と全体の半分近くを占めている工業地帯を次から選びなさい。 (2021年 島根公立入試 類似)

1. 京浜工業地帯
2. 中京工業地帯
3. 阪神工業地帯
4. 北九州工業地帯

問5 日本の諸地域における県庁所在地の特徴について、県庁所在地の人口がその県の中で「人口1位」ではない事例 (県と県庁所在地の組み合わせ) として適切なものはどれですか。 (2018年 香川公立入試 類似)

1. 山口県の山口市や、福島県の福島市
2. 愛知県の名古屋市や、宮城県の大崎市
3. 北海道の札幌市や、広島県の広島市
4. 神奈川県横浜市や、福岡県福岡市

問6 日本の自動車生産に関する統計において、1980年ごろまではほとんどゼロに近い水準であったものの、1985年以降に右肩上がりで急上昇し、2000年代には極めて高い水準に達した生産形態を何といいますか。 (2019年 愛媛公立入試 類似)

1. 海外生産
2. 加工貿易
3. 委託販売
4. ノックダウン生産

問7 堺市の人口分布と交通網の関係について、統計上の事実に基づいた説明として正しいものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)

1. 人口密度が最も高い北区には、地下鉄御堂筋線が乗り入れ、都市の利便性を高めている
2. 堺市内で最も面積が大きな区が、最も人口密度が高くなり、すべての鉄道路線が集中している
3. 堺市内の全区を網羅するように地下鉄が整備されており、区ごとの人口密度の差はない
4. JR阪和線や南海電鉄などの既存の鉄道網は、人口密度が低い地域に限定して配置されている

問8 日本の貿易における成田国際空港の特色について、貿易額の推移や内訳を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口公立入試 類似)

1. 輸出額よりも輸入額の方が大きく、医薬品や電子部品などの高付加価値製品を多く扱っている。
2. 輸出額と輸入額がほぼ同等であり、主に原油や鉄鉱石などの工業原料を扱っている。
3. 輸出額が輸入額を大きく上回っており、主に完成車の輸出拠点として機能している。
4. 近隣の東京港と役割を分担しているため、貨物ではなく旅客輸送の収入が貿易額の大部分を占めている。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
海外からの供給が不安定になった際でも、エネルギー供給を維持し、産業や国民生活の安定を図るため。
- 日本はエネルギー資源の自給率が低く、石炭のほとんどをオーストラリアなどの海外からの輸入に頼っています。国際情勢の変化や災害などで輸入が滞った場合、電力不足や産業の停止といった大きな影響が出る恐れがあります。そのため、港湾近くの備蓄施設（コールセンターなど）に一定量の石炭を蓄えておくことで、エネルギー供給の安定（エネルギーセキュリティ）を確保しています。
- 問2** **答え 1**
大都市の需要に合わせ、輸送費用を低く抑えつつ、野菜や果実などを新鮮なうちに市場へ届ける農業
- 大都市周辺という立地は土地代が高いという課題があるものの、巨大な消費地に隣接しているため、トラックによる輸送距離が短く済みます。これにより、運送料金を安く抑えられるだけでなく、収穫から店頭に並ぶまでの時間を短縮できるため、鮮度が重視される葉物野菜などを高い品質で出荷できるという経営上の強みがあります。
- 問3** **答え 1**
静岡県の牧之原や鹿児島県の台地などで大規模な生産が行われ、上位2県で全国シェアの約7割を占めている。
- 茶は温暖な気候と水はけの良い土地を好むため、静岡県の牧之原台地や鹿児島県、三重県などが主要な産地となります。統計データを見ると、1位の静岡県と2位の鹿児島県を合わせたシェアが68.2%に達しており、特定の県に生産が集中しているという産業構造を理解することが重要です。
- 問4** **答え 2**
中京工業地帯
- 愛知県を中心とする中京工業地帯は、豊田市などの自動車産業が極めて盛んな地域です。そのため、工業出荷額に占める輸送用機械器具の割合が約半分に達するという、他の工業地帯には見られない際立った特徴を持っています。これに対し、京浜工業地帯は印刷や機械、阪神工業地帯は金属や化学の割合が相対的に高い傾向にあります。
- 問5** **答え 1**
山口県の山口市や、福島県の福島市
- 都道府県の人口1位の都市と県庁所在地が一致しない例は、中学地理において重要なポイントです。山口県では県庁所在地の山口市ではなく下関市が、福島県では福島市ではなくいわき市（または郡山市）が、それぞれ県内で最大の人口を抱えています。一方、名古屋市、仙台市、札幌市、広島市、横浜市、福岡市などは、すべてそれぞれの県における県庁所在地であるとともに、人口が最も多い最大都市でもあります。
- 問6** **答え 1**
海外生産
- 日本の自動車生産の歴史を振り返ると、1980年代半ばまでは日本国内で作って輸出する形態が主流でしたが、円高の進行や貿易摩擦への対応、市場への近接性を重視する戦略から、海外での生産台数が急速に伸びました。この推移は、日本の産業構造がグローバル化したことを象徴しています。
- 問7** **答え 1**
人口密度が最も高い北区には、地下鉄御堂筋線が乗り入れ、都市の利便性を高めている
- 堺市の北区は統計上、最も人口密度が高く、大阪市中心部とつながる地下鉄御堂筋線が乗り入れています。これは、都市の利便性と人口の集積が密接に関係していることを示しています。面積が最大の区が必ずしも人口密度が高いとは限らず、むしろ郊外で人口密度が低い場合もあります。また、地下鉄は堺市内の全域を網羅しているわけではなく、特定の主要な動線に沿って整備されています。
- 問8** **答え 1**
輸出額よりも輸入額の方が大きく、医薬品や電子部品などの高付加価値製品を多く扱っている。
- 成田国際空港は、日本最大の航空貿易の拠点です。航空機を用いた輸送は船便に比べて運賃が高いため、衣類や食料品、あるいは医薬品、電子部品といった「軽くて高価なもの（高付加価値製品）」が主に扱われます。特にスマートフォンの普及や高度な医療品の需要増に伴い、これらの輸入額が増加した結果、輸出額よりも輸入額の方が大きいという構造が定着しています。なお、貿易額とは「貨物」の価値を指すため、旅客収入は含まれません。